

## 名古屋走り

写真上は名大の行き帰りに利用する「四谷通3丁目」交差点。一昨年暮れの朝、この横断歩道で危ない目にあった。青信号なので渡っていたら、右折してきた車に轢かれそうになった。あのときの恐怖は今も忘れられない。この横断歩道は小学生らも利用する。青信号なのに、なぜ車が突っ込んでくるのか。



その次の写真は、瑞穂区の生涯学習センター近くの横断歩道。鍼灸に通うときに、よく利用する。左右にわたる際、手を上げて車に合図するが、大半の車はなにごともないかのように走り去る。車が止まってくれると思って、歩いていくと危険な目にあう。たまに止まってくれる車には、お礼の？挨拶をする。信号のない横断歩道も、歩行者優先のはずではなかったか。



写真下は中日新聞1月17日夕刊。「消える白線 補修予算不足 愛知の道路6割手つかず」とある。写真のような横断歩道を目にすることがある。こんな白線だと、ドライバーには見えないのでは。疑問に感じる人が多い。知人と話していたら、「名古屋走り」が話題になった。それで早速「ネット情報」を探してみた。私が危険な目にあい、信号のない横断歩道で不愉快な思いをする理由の一端が分かってきた。



「名古屋走り」一名古屋走りとはいうものの、名古屋中心部よりも外縁部、近隣市で特に多く見られる。愛知県の2012年の交通事故件数、交通事故死亡者数ともに全国ワースト1位である。愛知県警では「最大の要因は運転モラルの低さ」であるとして、取り締まりや交通安全教室などの対策に乗り出している。

名古屋走りの特徴として、10項目が挙げられている。[信号無視]交通信号の切り替わり前後に交差点へ進入する、いわゆる信号残りと呼ばれる事象において、黄信号にあってはためらいなく進入し、赤信号に変わっても状況判断によっては進入することが見られ、名古屋走りの典型例とされている [速度超過]道が広いことで速度を上げる車が多い [ウィンカーを出さずに車線変更] [車線またぎ] [右折フェイント] [早曲がり] 右折をする際に、黄信号に変わったら即座に急発進し対向車より早く交差点を抜ける [右折中の追い越し] [歩行者軽視]横断歩道で手を上げている歩行者がいても無視して止まらずに進む [駐車方法] [車間距離] ……

(2017年1月22日)